

# 止防引万日本 協システ

## 通常総会並び記念講演会 満足度・市場拡大へ新宣言検討

日本万引防止システム協会(戸田秀雄会長)は2日、東京都千代田区内の主婦会館プラザエフで平成27年度通常総会を実施。第一部の総会、第二部の記念講演会、第三部の意見交換会のスケジュールで進行した。

総会冒頭に登壇した戸田会長は「凶悪犯の入口と云われて久しい万引犯罪は、青少年から高齢者へ広がり複雑化している。また、過性の犯罪から組織犯罪へと悪質化が進んで



戸田会長



桶田氏

いるとともに、他の犯罪に比べ、減少傾向を辿っていないのが実態である。犯罪という意識の希薄さ、孤独感から起因するストレス、悪質な換金目的など万引を犯す動機は多様であるが、被害者である小売店の立場から考えれば安全・安心が脅かされ、大きな経済的な損失を抱える」と述べた上で、同協会の啓蒙活動により万引防止システムの普及に努め、その結果多くのシステムが店舗に導入されること、今後の新宣言の検討について、戸田会長が指名を受け議案審議に移した。

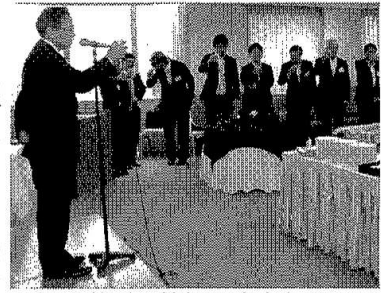
第一号議案の平成26年度事業報告、収支決算報告の件では、生産性向上設備投資促進税制に関するセミナーの開催、「ワイヤレス電力伝送システムに関する技術的條件に関するパブリックコメント募集」に関してEAS機器の正常な稼働を担保するための対応、「15分間勉強会」「JEA S講習会」の開催などを報告した。

政策・研究委員会で「ユーザーアンケート調査報告書のダイジェスト版の作成、市場規模調査の充実、技術指導内容の伝達、北大での干涉テストの継続実施、ワイヤレス電力伝送システムに関する技術的條件に関するパブリックコメント募集の対応などを報告、続いて収支報告、監査報告を行い承認。

模調査の実施などを報告した。技術基準委員会は総務省電波部電波環境課より

第二号議案では松本剛理事、小原史郎理事、喜多慎一監事の退任により、新理事として金村真一氏(㈱チェックポイントシステムジャパン)、佐藤圭三氏(キヤトルプラン㈱)、新監事に山根久和氏(セフトHD㈱)が就任。

第三号議案の平成27年度事業計画、収支予算の件で、同協会は引き続き万引犯罪の抑止・撲滅を推進する活動を強化すると伝えた。



竹花氏の乾杯で宴となる

テーマには「満足度向上と市場拡大」で来年2月に行われるスパーマーケットロードショー2016の出展・セミナーの開催などを予定していることを報告。予算案とも承認された。

第四号議案の新活動は、目的として万引防止システムのさらなる満足度向上に向けての活動宣言を作り、それぞれのEAS機器が高レベルのパフォーマンスを発揮し、防犯画像などの新しい対策との相乗効果で、万引被害額削減を目指すための活動方針を宣言したい。とし今後、政策・研究委員

会にて「JEA S新活動宣言」を起草し、理事会で審議および承認を経て、総会で発表するとし、これを承認。

第一部の最後に、来前半は、警視庁犯罪被害者支援室・命の大切さを学ぶ教室の桶田清順氏を講師に招き「万引対策は働く者に対する安全配慮義務にかかわる重要な課題である」をテーマに講演。

人見係長は「総務省では電波からの植込み型医療機器等への影響の調査研究を進めており、万引防止システムからの電磁波による植込み型医療機器への影響を同協会の協力を頂きながら取組みを進めている。万引防止システムの電波からの植込み型医療機器の影響は国内で、影響事例は発生していないが、海外ではペースメーカー装着の人に影響が発生した事例がある。もし今後、国内で影響事例が発生した場合、皆さんのご理解と協力をお願いしたい」と述べ、スライドで総務省で調査した植込み型医療機器が受ける電磁波の影響についての結果を解説し、総会は幕を閉じた。

第二部の記念講演の前半は、警視庁犯罪被害者支援室・命の大切さを学ぶ教室の桶田清順氏を講師に招き「万引対策は働く者に対する安全配慮義務にかかわる重要な課題である」をテーマに講演。

万引犯に長男を殺害された警視庁元署長の桶田氏は「万引は古くから新しい問題である。今こそ官民が真剣に取り組むべき課題だと思ふ」と訴える。

同協会が設立された平成14年7月、JR東京駅構内のコンビニの総括店長をしていた長男の順彦(まこと)氏(当時33歳)は店内で、おにぎりなどを万引した犯人を呼び止めて事情を聞くため事務所へ同行したが、途中に犯人が隠し持っていたナイフで腹部を刺された。犯人は逃走を図ったため、順彦氏はこれを追跡したが力が尽きて命を失うことになった。犯人は事件から二日後に逮捕され、無期懲役が確定した。桶田氏は「万引を発見した速やかに警察に通報してほしい」と伝え、撲滅に向けては「万引犯にはしっかり処分を受けさせるのが効果的。店側の積極的な通報があつてこそ、警察も摘発できる」と強調した。

また、防犯カメラの画像の公開で男が逮捕される決めた手となったことから、防犯機器の効果的な運用も評価していた。

第二部後半は(株)川比のCD推進部の長田泰文部長を講師に招き「地域の安全安心のため大同団結・窃盗撲滅プロジェクトの驚くべき成果」をテーマに講演した。

第二部の最後は、来賓の警視庁生活安全本部生活安全総務課の藤森雅之管理官と日本コン

パクトディスクビデオレンタル商業組合の若松修専務理事があいさつした。

第三部の意見交換会は、戸田会長のあいさつに続いて、経済産業省情報通信機器環境リサイクル室長・情報家電戦略室の太木雅文室長、日本小売業協会の山崎和敏事務局長がそれぞれあいさつした。

その後、全国万引犯罪防止機構の竹花豊理事長が登壇「昨今、万引問題への社会の関心が高まっており、問題視されている。このチャンスに逃さずに新たな取組みを行うことで、大きな前進となる。今後、日本万引防止システム協会と全国万引犯罪防止機構はお互いを牽引し合い、益々発展していきたい」と述べ乾杯の音頭を取って宴となった。

また新会員の紹介では沖電気工業(株)と浙江カン電子社が紹介された。

また新会員の紹介では沖電気工業(株)と浙江カン電子社が紹介された。